

一人T-ACTのススメ

— お笑い集団DONPAPAを作って —

小林 陽一郎 (数理物質科学研究科
博士前期課程 化学専攻 2年)

ドラえもんみたい

『ドラえもんみたいですわね!』と言われた時には、脳に電流が走りました。さかのぼる事、今から4年前の七夕直前の夜、当時、落語研究会の会長だった私は後輩の『七夕に何か面白い事をしたい』という思いを聞きつけ、『学生から七夕の願いを聞き、その願いを会員が叶える企画はどうだろうか』と提案。『良いですね!』と後輩が反応、すぐさまその企画に必要な物、広報手段などを手元のノートに書き、スケジュール設定をしました。後輩の漠然とした『やりたい』の思いが実行できそうな企画に変身し、そこで後輩が一言『ドラえもんみたいですわね!』。この「一人T-ACT」状態。思えば、私の「誰かのやりたい事を自分のやりたい事にして快感を得る」という特殊性癖はここで芽生えたように思います。

誰かの『やりたい』を自分の『やりたい』に

私の平成最後の年・2018年は「誰かのやりたい事を自分のやりたい事にして快感を得る」という1年でした。『自分もお笑いがしたい』という後輩の一言から、今までお笑いの企画を実施する団体をお笑いサークル「つくばお笑い集団DONPAPA」に変えるというT-ACT企画「筑波大学にお笑いサークルを作りたい!」。そして『お笑いの大会でもっと多くの人を巻き込みたい』という後輩の気持ちから、過去4年行っていたお笑いの大会「ツクバお笑いグランプリ」をさらに拡大させる企画「つくばからお笑いを発信したい!」。白状すると、私は他人の企画をサポートするフリをして、自分の快感へと変換、2つの企画を「自分の企画」だと思って活動を行っていました。

誰かの『やりたい』をサポートする上で気を付けていた事が2つあります。「お笑い」という非常に自由度の高い企画を実行する上で気を付けていた事のため、他の企画に役立つが分かりませんが、一応、書き出します。

1つ目は「他者の『やりたい』を自分の『やりたい』に変換する事」です。たとえ後輩のやりたい事は自分のやりたい事に合致しない時でも、深くすり寄って、自分に言い聞かせ、最終的に自分が楽しむ事ができるように気を付けました。自分のやりたくない事でも、それに必要なもの、企画に必要なものを細分化すると意外と自分のやりたい事が見えてきます。例えば、私は、後輩がやりたいと言っていたお笑いライブを全くやりたいとは思いませんでしたが、そのライブのパンフレットを作る事はとてもやりたい、今までにないパンフレットを作りたいと思いパンフレットを楽しく作りました。そのように常に企画の必要要



「一人T-ACT」で得た仲間たち「つくばお笑い集団DONPAPA」

素を細分化して、自分の興味が反応する点をピックアップしてきました。

2つ目は「超自我ポイントに気付く事」です。最初に『やりたい』と思ったことでも、初期衝動の強度が弱まり、どうしても『やりたくない』事をやらざるを得ない状況が発生してしまいます。私は、その『やりたい』が『やらなきゃな』になった瞬間を「超自我ポイント」と呼んでいます。後輩が超自我ポイントに到達した時はすぐさま駆けつけ『やらなきゃな』を処理し、企画を成功に導き、後輩の成功体験を増やす努力をします。但し、これはバランスが難しく、あまり後輩の『やらなきゃな』を奪い過ぎてしまうと後輩がいつまでたっても成功体験を重ねる事ができません。私もこのバランス感覚を習得できていないので、いつか習得できればと思っています。

「一人T-ACT」のススメ

『やりたい事をやれば良いじゃん』とは言われた所で、誰もが『やりたい』事がある訳ではないと思います。それでもウズウズして『何かやらなきゃな』と思っている方は、ぜひT-ACT室に来て「一人T-ACT」、誰かの『やりたい』をサポートするのはいかがでしょうか。

私の「一人T-ACT」人生は4年。その4年間で、特にT-ACT推進室の方々には大変お世話になりました。ドラえもんみたい、とは言いませんが、「呼べばすぐ来る」、そして「ラジコン」と「ジオラマ」だったらスネ吉兄さんと言った具合に、『お笑い』と言えば小林、呼べばすぐ来るし』と、お笑い版スネ吉兄さんに成長できた4年間だと思っています。『一人T-ACT』にかかせない二感というのを教えたはずだ。おぼえているかい。』